

株式会社 少年写真新聞社
〒102-8222 東京都千代田区九段南3-9-14HF九段南ビル
https://www.schoolpress.co.jp/★定期刊行物は終わる期間を予定しない刊行物です。年度が替わりましても、購読中止のお申し出がない場合、引き続きニュースをご送付申し上げます。
※著作権法により、本紙の無断複写・転載は禁じられています。

子どもたちにしっかり伝えたいプライベートゾーン

帝京短期大学 名誉教授 穴戸洲美

日本は、性教育後進国といわれるほど、「性」をタブー視する傾向が、今も根強く残っています。一方、インターネット社会の中で性情報の氾濫はすさまじく、それに伴い、性被害も性加害も増えてきています。しかも、その犠牲者の多くは子どもであり、幼児の性被害についてもニュースになるほど、社会的な問題になっています。

幼児の性被害は、子ども自身もその意味がよくわからず、表沙汰になるのはほんの一部です。思春期になった頃に、その時の被害について自覚し、大きなトラウマとなって一生涯その傷が残ることもあります。

こうした被害から子どもたちを守るためには、周りのおとながしっかり見守ると共に、子ども自身が自らの体について知り、身を守る力をつけておく必要があります。

体の名前を覚えよう！

そのために、幼児期にぜひ実践してほしい学習のひとつが、「体の名前や簡単な働き」について、学べる機会をつくることです。

2～3歳になると、「ママは、おちんちんないの?」とか「赤ちゃんはどこから生まれてくるの?」などの質問をすることがあります。こんな時が、チャンスです。目や口や耳と同じように、性器の名前や男女の違いについても、さらっと教えられるといいと思います。

女の子と男の子の体の違いや、お母さんのおなかの中で大きくなった赤ちゃんが、赤ちゃんの通り道を通して生まれてくることなど、子どもからの質問に、どきっとすることがあるかもしれませんが、幼児にとっては、おしっこやうんちがどのように外に出てくるのかと同じ感覚の質問です。口から食べたものが、

うんちになって出てくるまでの仕組みを聞かれたら、なんの抵抗もなく教えられると思います。子どもにとっては、「赤ちゃんはどこから生まれてくるの?」という質問も同じ感覚で聞いているのです。このように、体の名前や働きについて教えたうえで、体を清潔にすることや、大切にすることも併せて教えておくといいと思います。そのことが、次のプライベートゾーンの学習にもつながられます。

性被害から身を守るために 大切な「プライベートゾーン」！

わたしたちの体は、目も耳もすべて大切ですが、特に大切にしなければならない場所として、プライベートゾーンがあります。プライベートゾーンは、ちょうど水着で隠れている場所です。この場所は、将来、人としての最高のスキンシップに使われる場所ですが、幼児期には特別に大切な「人に見せたり触らせたりしてはいけない大切な場所」として教えておくいいと思います。

もちろん、ほかの人のプライベートゾーンも、見たり触ったりしてはいけません。もし、だれかに触られたり、見せてといわれたりしたら「NO」ということ。もし、だれかに触られたり、無理やり見られたりしてしまったら、すぐに信頼できる先生や両親に伝えること。加害者から「だれにもいってはいけないよ」などといわれても、必ずきちんと話すことの大切さも伝えましょう。

これらを教えることで、幼児を性被害から守ることや、被害にあった場合も、早期発見につながります。プライベートゾーンや、それ以外の性に関する質問に答えるのが難しい場合は、絵本などを活用するののも一つの方法です。

ほけんニュース

子どもを性被害から プライベートゾーン 守るために伝えたい

プライベートゾーンは、自分だけの大切な場所です。プライベートゾーンとは何か、どうして大切にするのかなど、ふだんから正しい知識を子どもにわかりやすく伝えることが大切です。幼児期から「自分の体は自分のもの」ということを知って、万が一の時に、安心して助けを求められる環境をつくるのが、子どもの自己肯定感や防犯意識を育てます。

ぶ ら い ベ ー と ゾ ー ん

プライベートゾーンって なに？

※子どもたちに見せてお使いください。

からだの とくに たいせつな ところを プライベートゾーンというよ!

プライベートゾーンは みすぎで かくれる ところと くちだよ

みせたり さわらせたり みたり さわったり しないよ

家族でも勝手に見ない・触らない

「家族だから」と子どものプライベートゾーンを、同意なく見たり触ったりしないことが大切です。入浴や着がえ、薬を塗る時などに「これから〇〇するね」と、声をかけてから行うようにします。また、排泄した後は、しっかり拭いたり、入浴時には優しく洗って、プライベートゾーンをいつも清潔にしておくことを伝えてください。

幼児が自分自身を守るための「NO・GO・TELL」

子どもたちが自分を守るには、具体的な行動を身につけることが大切です。プライベートゾーンを見られた、触られた時はもちろん、「怖い・不安・痛い・腹が立つ・悔しい」などの、嫌なことをされた時は、「NO（嫌という）」、「GO（逃げる）」、「TELL（話す）」の3つの行動をとることを、くり返し伝えてください。家庭での練習が、子どもをトラブルから守ることにつながります。



NO
いやと
いう

嫌なことをされたら、いわれたら、はっきり断る



嫌な時は、相手がだれでも「いや」「やめて」「助けて」ということを伝えます。家庭でも子どもがくすぐるのを嫌がったらやめるなど、おとなが「NO」を受け入れることが大切です。

GO
すぐに
逃げる

知っている人や身近な人でも、迷わず逃げる



「嫌だ」「怖い」と感じたら、すぐに逃げるように伝えます。知り合いや親戚であっても、違和感があれば離れて、できるだけ人の多いところに逃げるようにします。

TELL
信頼する
おとなに
話す

「内緒だよ」、「秘密だよ」といわれても話す



小さなことでも、信頼できるおとなに話すことをくり返し伝えます。もしも、「秘密にして」といわれても、守らなくてよい、怒られないと伝えることも大切です。

NO・GO・TELLができなくても「あなたは悪くない」

嫌なことをされた時に、子どもが恐怖や混乱で声が出ない、動けないのは当たり前のことです。どんな状況でも、被害にあった子どもに責任はありません。子どもが、うまく逃げられなかった自分を責めないように、「何があってもあなたは悪くない、悪いのは100%相手」ということを伝え、安心して話せる環境をつくってください。

監修 帝京短期大学 名誉教授 栄戸洲美先生

今月の

掲示用写真ニュース活用法



体の大切なところである「プライベートゾーン」について、子どもたちに伝える際にご活用ください。



《おはなし》

体は、自分だけの大切なものです。特に(①を指して)水着でかかれるところと口は、プライベートゾーンで、人に見せたり触らせたりしてはいけない場所です。お友だちのプライベートゾーンも同じです。(②を指して)見られたり触られそうになったら「やめて!」といって、すぐに逃げましょう。「秘密だよ、内緒だよ」といわれても、必ず先生やおうちの人に話します。やめてといえなかったり、逃げられなかったりしても、みんなは悪くありません。悪いのは、見たり触ったりする人です。安心して話してくださいね。

リポート 基本的生活習慣とメディア習慣が子どもたちの未来を決める

東北大学 加齢医学研究所 教授 川島隆太氏

去る3月13日(金)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、「早寝早起き朝ごはん」国民運動20周年記念式典・フォーラムが開催されました。本号では、長年にわたって脳科学の観点から子どもたちの脳と発達について研究されている、東北大学の川島隆太氏による基調講演のようすを紹介します。

川島氏は、以前よりスマートフォン(以下スマホ)による子育てに警鐘を鳴らしてきました。まず、スマホを見ながら授乳する母親が増えていることや、0歳児から知育アプリを与えることへの危機を訴えました。授乳は単なる栄養補給だけではなく、赤ちゃんの表情などから状態を確認し、相互のコミュニケーションをとる大切な時間です。そして、本来、親子で行う「いないいないばあ」などの遊びが知育アプリ化され、子どもが画面をじっと見続けていることに衝撃を受けたことについて触れ、親子の愛着形成において大切な乳幼児期に、スマホ漬けにすることによる弊害について、声を大にして語られました。

そして、2歳児でも毎日2時間インターネットに触れている現状を示し、脳の発達段階で



スマホによる悪影響を語る川島隆太氏。

の前頭前野への悪影響や、睡眠の質の悪化、集中力の低下などを、事例をもとに述べられました。また、絵本の読み聞かせは、相手を慮る気持ちが芽生え、子どもたちの脳の発達のために、とても大切であると述べられました。

基本的生活習慣である「早寝早起きをして睡眠時間を十分にとること」、「朝ごはんをきちんと食べること」、「外遊びなどの運動をすること」が子どもの成長にとって重要であることを、強調されました。

最後に、まわりのおとなは、ぜひ紙の本(絵本)を子どもたちに読んであげてほしいと締めくくられました。